

## 尾田さんの偉大な功績を偲んで

元学連教官 吉田竹治

同志社大学航空部の創立者として、後輩諸君の面倒を見られて満60余年。本当にご苦労さまでした。謹んでお礼を申し上げます。

晩年、闘病生活も効なく、ご逝去になり本当に残念に思い、心からお悔やみを申し上げます。

航空部発足のころの、わが国の航空界は、まだまだ幼稚な時代で、特に滑空界は未知、未熟な時代で、グライダーを見たこともない飛行機野郎が、殆どの時期でした。

昭和11年12月、同志社航空部は、発足されたのですが、尾田さんと一緒に学連参加の須川、牧野(伊)、橋本さんたちは勿論のこと、その後の諸君も逸材揃いで、飛行場は、同志社の角帽と丸帽に独占されたように思えた時代もありました。

私は、昭和12年の秋に学連に奉職させて頂きました。新参の教官でしたが、滑空機指導の免許資格を持っていたので、飛行機操縦部のほかに滑空部も併せて担当しました。

同志社50年誌で、戦前の黄金時代を築かれた諸君の写真が、懐かしい限りです。

当時の学連は飛行機の操縦訓練が主体で練習機は、アンリオ、アプロが1～2機で、練習生も20人前後。一方滑空訓練は、関西支部全員で、15～6人が毎週、土曜の午後と、日曜日に実施しましたが、飛行場の大部分は飛行機操縦部に占拠され、グライダーの訓練は、飛行場の隅のほうの僅かな空間を使い、それもヒバリの巣を踏まぬように小さな赤旗を立てて、優しい心遣いでの訓練でした。プライマリーの地上滑走、直線滑空ばかりで、学生諸君には十分な訓練も出来ず申しわけなく思っています。

しかし、操縦部の牧野、橋本、大西、丸川、関大の山村、苗村、一山の他の諸君には、霧ヶ峰夕

カ型での飛行機曳航を行い、昭和15年と16年には、大胆にも大阪から名古屋—羽田—霧ヶ峰への曳航空輸を行いました。また冬期には生駒山上発進の滞空訓練を実施して学生諸君に、優秀な成績を残してもらいました。

その後、牧野(鐵)、佐々木君達の頃には練習機も95式3型、赤トンボが採用されて、戦前の学生航空最盛期を迎えましたが、学徒動員、繰り上げ卒業と(天国と地獄)移行、平和の鳩が荒鷲とか隼とか呼ばれる、第二次大戦の渦中に巻き込まれました。

敗戦後、約7年間、わが国の航空は、一切禁止中断されましたが、尾田さん達のご努力で学連OB会及び、各校航空部復活、更に滑空訓練へと大変なご尽力を頂いたことと思います。

末筆になりましたが、同志社大学の小野先生には、永い間に亘って、ご協力、ご指導を賜りましたことを尾田さんも感謝しておられたことと思います。法政大学の内田百間先生、関大の桜田先生、九州大学の佐藤博先生方と共に学生航空の大恩人として歴史に残る実績と深く感謝いたします。有り難うございました。ご昇天の尾田さんの御霊がこれからの同志社航空部の発展をお守りくださいますようにお祈りいたします。そして必ずや、誰かがご遺志を継いでくれることと期待すると共に、今後の同志社大学航空部のご発展を願っております。

## 尾田大先輩の思い出

昭和30年卒 吉川 禎一

同志社大学航空部、創設者の一人として、最長老であり、永らくOB会長として後輩を良く束ねてこられた尾田大先輩が去る2月5日に大空に向けて永遠に離陸されました。

ここに謹んでご冥福を心よりお祈り致します。

私がこの大先輩と関わりを持たせて頂いたのは、戦後学連再開第一回の玉水での合宿(昭和27年8月)の時教官として、尾田、牧野(伊)、石田、牧野(鐵)、の同志社の先輩の方々がおられ、その時からです。しかしその折には直接指導は受けなかったと思います。引き続き11月、12月翌28年3月、7月と玉水での学連の合宿があり、尾田先輩も教官として指導に当たっていました。その頃我々学生間では、温厚で決して怒ったり、怒鳴ったりせず、あの纏々とした言動から“オトウチャン”なるニックネームを付けていました。(古い先輩の間では別の呼び名があった様ですが……)又あの当時尾田先輩は共同石炭に勤められていたサラリーマンなのに、今思うと良く時間が取れたものと感心すると同時に大いに感謝致します。同28年9月、10月に青野ヶ原で指導者講習会が2回行なわれ、同志社からは尾田、牧野(伊)、牧野(鐵)、の先輩と、応援学生として藤田(武)、吉川、北尾、等が参加しました。この時初めてトランシーバーなるものが学連の機材として現れました。それは第2次大戦の映画の中でしか見た事のなかったアメリカ軍が使用していた箱型の大きな重いもので中は単1乾電池が非常に沢山入っており乍ら電池の寿命は短かった様に記憶しています。(高松での合宿からは日本の軍隊で使用していた有線電話に変わった。)それでも今迄手旗に依る連絡手段と比べると、非常に便利になり人間迄も高級化したかに思えました。又この講習会で使用された機体

は鷹7ソアラ(JA2002)でウインチ曳航でしたが、山田八郎教官(事業用滑空士、京都工芸繊維大学職員)の試験飛行の折機体側で索が切れず、ウインチカー側で索を切ると云うアクシデントがあり、下にはプッシュが多数あり索が引掛らないかひやひやしながらか見詰め何とか無事着陸され全員安堵致しました。そしてこの講習会で尾田先輩を初め、参加された学連のOBの皆様全員、自家用上級、教育証明の試験に合格され、学連の方もいよいよOB教官に依るウインチ、飛行機曳航へと本格的な指導体制が確立されました。余談ですがこの講習会の打上の夜、尾田先輩はそれ程、お酒が強くなり早目に休まれたのです。その前に記念寄せ書きを皆でされ(天理外大OB今井様く凌雪>の揮毫が中心にあったが何と書かれたかは覚えておりません)そこに墨があったので、どなたのいたずらか記憶ありませんが、尾田先輩の顔に墨を塗り囃子たてたものです。この時私は写真を撮ったのですが、どうしてもネガが見付からず残念です。昭和29年夏霧ヶ峰で戦後初めて関西、関東、西部、の3支部合同合宿が催されましたが、私は何故か尾田、牧野(伊)両先輩と一緒に夜行列車で行き朝諏訪湖でモーターボートに乗り、そのあとゆっくりと霧ヶ峰に登り、合宿には参加せず気楽に見学していた様に思います。

その他学生時代から夜の巷へ飲み連れて貰ったり、卒業後も空だけでなく、スキーに信州の関、燕、迄も連れて行ってもらいました。まだまだ色々ありますが……。

最後に尾田先輩の創られた同志社大学航空部及び翔友会を我々後輩は先輩の意志を継いで一層の発展をさすべく努力致しますので、いつまでも見守って下さい。

## 先輩の目

昭和32年卒 関西学院大OB 安田 晃 次

尾田幸雄さんは学連50年誌の各大学名簿には、昭和14年卒業生とあり、牧野伊兵衛さん、石田文雄さんより先輩となっていることを初めて知りました次第です。中国大陸で事変勃発、戦時体制へと大きく傾いて行った頃でした。昭和11年同志社大学航空部創立とありますから、学連関西草創期の大先輩達のお一人ということになります。牧野伊兵衛さんが、尾田さんのことを「ボソヤン」と呼んでおられたのを覚えております(間違っていましたらゴメン)。渾名の謂れは存じませんが、悠然としたお人柄、御天然としたところがありました。尾田さんとは京都玉水の河原での合宿訓練か、青野ヶ原の指導者講習会かいつ頃からご一緒だったかはっきりしておりません。直接の指導教

官ではなかったのですが、いつも吉川さん、北尾さん達やんちゃな雛鳥を見る優しい「お父ちゃん」の目で、私達も同じ様に課外指導、薫陶を受けた青春時代を思い出しております。

学連のよいところは、学校を問わず先輩・後輩が、よき師、よき友となって、能力を認め、引き出しその道を自力で歩かせたところにあり、昨今の教育事情が余計歪んで見えます。戦前の諸先輩に教官としてご指導を頂いたり、軍隊経験のある学生先輩の修羅場をかいぐった(らしい)大手柄や武勇伝を聞かされたり、ヒコーキ一筋の多くの素敵な人々との出会いがありました。

如月(2月5日)天界に輝く星に祈りを捧げます。



(写真提供 吉川 禎一氏)